

8月号

いっしん

平成29年(2017年)

第391号

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 /FAX 020-4665-5653
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

信心とは
いかなることを
いうならむ
はじめ忘れぬ
心ならずや
甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師神致



支援物資を乗用車いっぱい詰めて出発 (7月14日)



大鶴教会



朝倉町・杷木町は片側交互通行で渋滞 (7月14日)



お広前の濡れた量の搬出 (7月18日)



お広前床下の泥のは1m堆積、重機が入れず、人力作業で (7月18日)

九州北部豪雨 (大鶴教会) 復興支援活動 始まる

鹿児島地方教会連合会では、教区内で被災された大鶴教会への、支援物資運搬と支援活動(作業を進めるべく、豪雨の二日後から呼びかけがあり、連合会内からも若い先生方が現地へ出向かれて、そのようすが報告されるようになっていました。

そのような中、七月十四日と十八日の両日、復興支援活動(作業)に、宮之城教会の松井先生と二人で赴かせていただきました。

七月十四日、鹿児島地方教会連合会の各教会から集まっていた支援物資を乗用車に積み込んで、午前九時頃に、宮之城教会を出発しました。

十三時頃、甘木親教会(朝倉市)に参拝し、祈願祭の祭服等を車から降して、国道三八六号線を日田市(大鶴町)方面に向かいました。

途中、朝倉町・杷木町では片側交互通行が五、六か所あり、いつもの倍以上の時間がかかり、十五時過ぎに、ようやく大鶴教会に到着したようなことでした。

(教会長の報告
次ページへつづく)

九州北部豪雨 (大鶴教会)

復興支援活動

七月十五日、
十八日作業に

大鶴教会へやっと到着した、十五時は、支援活動(ポランティア)の終了時刻となっており、大鶴教会でも作業が終了したところでした。

しかし、森義信先生(玖珠町教会長・南九州教務センター所長)が最後の確認をされて帰ろうとされているところでした。

森先生からは「どこに泊まるのですか?」と尋ねられ「テントも持ってきているので杷木の道の駅にでも」と答えますと「うち(玖珠町教会)に泊まらなければ」とのことので玖珠町教会に泊まらせていただくことになりました。

それから玖珠町教会へ移動し、支援物資を降ろして、玖珠町教会に避難滞在中の江田道孝先生(大鶴教会長・森先生の岳父)、森家のご家族、支援活動の青年と、夕食を共にして、江田先生のご心談を夜更けまで聴かせていただき、お世話にならせていただきました。

翌七月十五日は、大鶴教会で教職

舎と教会周囲(境内)の泥出し作業でした。

この日は、鹿児島地方教会連合会、熊本県連合会、筑水連合会、大分県北部連合会から、十数名の方が支援活動(作業)に参加されました。

教職舎には三十〜四十センチ(お広前は一メートルほど)、教会周囲には四十〜七十センチほどの泥が積もっていました。



奥の間の泥出し作業。
(7月15日)



仮設トイレが到着、設置。(7月15日)

十五日は、

天気も良く、スコップと一輪車で行う泥出しは、体力勝負の作業となりました。

作業や農業の経験が豊富な方は、スコップの扱い方

の違いがはっきりするようでした。

外での教会周辺(境内)の泥出し作業は、コンボで砂を集めては二トンドンプで処理場に運ぶ作業でした。作業は、少し早めの午後三時までと決められており、厳しい暑さの中の重労働で、疲労が蓄積しないようにとの配慮であることがよくわかりました。

十五日は、十五時に作業を終えて、解散し、十六日と十七日は、甘木親教会で祈願祭の御用をさせていただきました。

甘木親教会の御用が終わった、翌十八日に、再度大鶴教会に作業に行かせていただくことになりました。

十八日は、甘木親教会の、在籍教師・出社教会教師・壮年会と青年会の信者の皆さん、総勢十五名ほどで大鶴教会に向かいました。

大鶴教会に着くと、よそからも数名の教師やボランティアの方々作業に来ておられました。

十八日の作業は、お広前に残る、水をたっぷり含んだ畳出しと、床の撤去、床下の一メートルほど積もった泥の搬出（スコップと一輪車で出す）、神舎・霊舎の清掃（これは教師のみ）でした。

お広前の床下の、一メートルほど積もった泥の搬出は、予想以上の量で、十人ほどで取り組んで、やっと四分の一ほど出すことができました。お広前床下に積もり溜まった泥はことさらに多く、数日を要する事が予想されました。



一輪車で広前外に出した泥を、コンボでダンプに積み替え、搬出。(7月18日)



女性もスコップを持ってガンバってくれました。(7月18日)



神舎・霊舎は、佐藤先生(相知教会)が、丁寧に、きれいにされました。

大鶴教会の江田 泉先生には、昨年の九月、鹿児島地方教会連合会の「青年のひろば」という行事のために「仙寿の里温泉」（霧島市牧園町）にお話に来て下さいまして「熊本地震復興支援活動の現状と、これから私たちは何をなすべきか」という内容のお話をして下さいました。その恩返しという意味でも、復興支援活動に行かせていただきました。

大分県
2016.09.24～25.
鹿児島地方教会連合会
「青年のひろば」

大鶴教会 江田 泉 先生

甘木親教会

祈願祭

仕えられる

七月十七日

九州北部も梅雨が明けた七月十七日は、陽の目も出るほどの夏空となりましたが、ご祭典・ご教話後の奥津城参拝直後に夕立があり、夏らしさを感じる一日となりました。

甘木教会 安武親先生ご祭主のもとに麗しくご祭典が仕えられました。



祭典後の教話の講師は、大口教会 長 安武秀信先生でした。

講話の前

半は、次のようにお話になられ、祈願祭を迎えるにあたり、私どもの信心の稽古の現し方を示されました。



大口教会長 安武秀信先生

それを信心ということに置き替えてみますと、神と人との関係もそうだなと思います。

天地の親神様は、天地のお恵みの中に私どもを育み、さらに金光大神様を差し向けられて取次の働きをもって、私どもを助け幸せにしようとなさっておられ、その思いにこたえて行こうとするのが信心です。

しかし、神様が人を助けようとなされる働きは眼に見えません。

電波はここにも通っているのですが目に見えず、アンテナとテレビを置くと映像が映ります。

そのように、生神金光大神御取次の働きは、天地に満ちておるのですが、こちらが神様に心を向けなければ、信心しなければ、働きようが無いに等しいことになってしまいます。

九州北部豪雨、三十名以上の方がお亡くなりになられ、親先生のお祭詞の中にも「霊様方の助かりとお道立て、一日も早い復興を」ご祈願申し上げられ、ほんとうにそうだなと思いい願わしていただいております。

*

被災地では、復興を願っての行政の働き、自衛隊や消防士の方々、ボランティア、関係者等々の、助けようのなさる方々の働きと、被災された当事者もそれを受けて、立ち上がりとなさる方々がおられます。

大正九年一月十九日の、初代夫人の夢に、見渡す限り広々とした野原で、神々しい老人が、せっせと草を刈り揃えておられるので、どなたさまであろうかと近寄ってみますと、その老人が「帰ったなら、教会長へ、わしがかようにして働いていること

を伝えてくれ」と申されるのであります。その夢の話聞いて

へそのご老人こそ、教祖生神金光大神様におわずに違いない。われわれの眼にこそ見えぬが、一時のお休みもなく、あとから進んでくる者のために、荒蕪の地を開拓され、地均しをしてくださいているものであろう。われわれ教師は、その地均しのできた土地の上に、種を播くだけの御用をしているにすぎない……という夢です。

そのようにして、人を助けようとする働きは、教祖様がおかれになられても、百三十四年ずっと続いておるのです。

都城教会の初代高松 栄という先生が、あるときお夢を頂かれ、三代金光様がお広前の玄関から草鞋を履いて出かけようとなされておられたそうです。

それで「金光様どちらにお出かけでしょうか」お尋ねになられると「旅



立教聖場（教祖様広前）
（樋口一郎氏 画・「金光教」HPより）

に出ます」と、その日が昭和三十八年四月十三日でお隠れになられたのです。ということ、教祖様のように「来てくれい」というところに行つてやる」ということです。そういう働きに私共は含まれているのですが、見えないのです。見えれば本来じつとしておられないのです。そう

いう働きがあつておつても信心しなければに等しいのです。その働きを受けて、わが身の上にながが家の上に、神様の御庇礼を現わしていくことが私たちの勤めです。

祈願祭が始まった明治三十九年当時は、大教会所建築という大きな願いがあつたのです。

その精神は「神恩報謝」です。神様のご恩に報いたいということ。現在、大教会所建築はあつていませんが、報恩の精神はいろんなところに現わすことができます。

教会の御用も、参拝も、自分が神様の御庇礼を頂いて人を導く、人に

道の尊さを伝えて行くこと、これもご恩に報いることです。

そのためには自分の信心を常に鍛え直して、頂き直して行くことです。

……〇……〇……〇……とお話になられ、自分の信心を鍛え直し頂き直す、信心の稽古の仕方や要点を、さらにいくつかの例話を挙げ、尊くありがたく引き付けられるお話しをされました。

あしあと

加治木教会行事記録

7月

- 1 (土) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (月) 親教会参拝日(参拝未定)
- 9 (土) 多良木教会祈願祭 11時、清掃御用 10時
- 10 (日) ●月例祭 10時半
- 16 (日) 甘木親教会 教師研修会
- 17 (祝) ●甘木親教会 祈願祭
- 21 (木) 清掃御用 10時
- 22 (金) ●月例祭（ご祭具のみ） 10時半
- 引き続き 御用奉仕
- 23 (日) 加治木教会 祈願祭 11時、
- 30 (日) 連女性の集い 10時半
- 31 (月) 清掃御用 10時
- ” さつま会（連合会） 10時半
- ” 折り鶴つなぎ御用（全園大会） 10時半

鹿児島地方教会連合会

信奉者研修会

開催される

慈雨に潤う田んぼの早苗が生き活

きと育つ、六月二十五日(日)宮之城教会において、第二十四回「信奉者研修会」(鹿児島地方教会連合会主催)が開かれました。

講師に、甘木教会 安武光 先生をお迎えして、午前中に講話を聴かせていただき、午後からは質疑応答などの全体懇談が行われ、講師の人柄が現れ終始和やかな雰囲気の研究会となりました。

講話は『喜びは人の心の真なり』という講題でした。

講話では、今年度から真愛保育園

の園長となられたために、保育園で感じてもらえることに始まり、お父様である二代教会長 安武文雄親先生のご信心について、「家族のこと、学生時代の想い出などをお話し下さ

いました。

最初の方にお話しになられ、最も大切に思われてある要旨を少し掲載させていただきます。

…講話より…

腹を立てることは教えないでもするけれども、喜ぶ・お礼を申すということに教えなければできない。

今年から保育園で御用させていただいてありますが、お礼のできない若い人が多いのには驚かされる。

「お世話になります」と言わないのは「お金を払っているのだから言う必要はない」ということなのです。ある小学校での話ですが、ある先生が「給食を作ってくれた

人に、お米や野菜を作ってくれた農家の人たちに、お礼を申しましょう」と言っていたら、父兄が「そんなことは言わないでください、お金をもらってあるでしょう、それが仕事でしょう、



お礼を言う必要はありません」ということがあったというところで、ほんとに驚かされます。

幼い時から「お世話になって生かされて生きている」ということを教えて行くのが、金光教の信心をさせていたたく者の使命だと思います。

そういうことが分かったら、ぜひそうならせてもらって、自分の腹に入れさせてもらって、自分が実践させてもらい、周りの人へ伝えて行くようになることが大切だと思います。

今の世の中は、物が豊かになって、足りないこと、不平不足にばかりに目が行き「お世話になって」ということに目が向いていません。

*

以前に、たまたま私が夜の御結界の御用、夜奉仕という御用をさせていただくようになった時に、父が夜



の九時頃に御祈念に出てきて、御祈念座で御祈念を始めた時に「四神金光大神様、生神金光大神様、天地金乃神様」とお祈りさせてもらうのですが、その前に「親先生の御手続きをもって御願ひ申し上げ奉ります」と言ってお祈念を始めたのです。その言葉を初めて聞いた時ですが、びっくりしました。

父のことは、親先生と申しておりますが、その親先生が「親先生の御手続きをもって御願ひ申し上げ奉ります」とはどういうことであろうかと、思われ考えさせられました。

「金光様の御手続き、小倉親教会の親先生の御手続きをもって、お願ひさせてもらいます」という意味であったのだらうと思っております。

「どうぞ親神様お聞き届けください」ということではなかったのではな



いかと思います。

父は「心神」と書いて「わが心が神様に向かうのが信心」とよく話しておりました。

父は、わが心の芯がはつきりしておいたからそういうようにお願いし、初代もそのようにしていたからそう申してお願ひしていたのだと思えます。

先日、金光教学院で御用をさせていただきます。娘からメールが来て「御本部で御祈念するときには、親先生の御手続きをもって、でいいの？」と尋ねてきました。

「御本部ならばやはり、金光様の御手続きをもって、でいいんじゃないの」と返事しましたが、私がどこかで話したことを聞いていたのです。娘に直接話したことはありませんでした。有難いことだと思わせてもらいました。



訃報

霧島市府中町在住の徳永フチエさん（徳永盛広さんの実母）が、七月十八日、九十八歳にてお国替えされました。霊様のご安心とお道立てをお祈り申し上げます。

八月のご霊神様のおまじ

- 信國禮子之霊神 昭和20・08・03
 - 中島シマ之霊神 昭和25・08・06
 - 汰木絹子之霊神 平成28・08・06
 - 西本ハナ子之霊神 平成11・08・07
 - 中村宗吉之霊神 大正11・08・10
 - 大重 久之霊神 昭和41・08・18
 - 星原隆彦之霊神 昭和55・08・22
 - 星原阿称子之霊神 平成16・08・26
 - 上田ハル之霊神 平成16・08・26
 - 福元チヨ之霊神 昭和28・08・28
 - 小坂篤夫之霊神 昭和58・08・28
 - 柳園ハナ之霊神 平成15・08・29
 - 中村愛加之霊神 平成03・08・
 - 榎原ヤオ之霊神 昭和40・08・30
 - 向江ナツエ之霊神 平成24・08・31
- 立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

九月二日(土)〜三日(日)
九月二日午前七時半出発
甘木親教会
信徒の集い

KONKOKYO
金光教鹿児島地方教会連合会 青少年育成協議会

夏のつどい
ゲーム・ピクニック 夏休みの宿題(工作)大作戦!
とき... **8/20(日)10:30~** AM
集合場所... 県立 北薩広域公園 (宮崎県 日向市 北薩広域公園 管理事務所 集合場所)
持ってくるもの... お弁当・水筒・帽子・タオル
対象... 子供も 大人も みんなでどうぞ!
内容... 竹・木工作・ゲームなど



◎参加申込みは8月10日までに教会まで参加券とりまわし。加治木親教会 矢野裕子までご連絡下さい。
TEL 0995-62-2895 / FAX 020-4665-5653 / E-mail konkokyo@hs33bbs.ne.jp

八月六日(土)〜八日(月)
少年少女全国大会 参拝
出発... 八日午前八時 帰着... 五日午後七時半頃
旅費... 大人... 二五〇〇〇円 中学生... 二〇〇〇〇円
小人... 一八〇〇〇円 幼児... 八〇〇〇円
交通機関... マイクロバス (霊地... 光風館泊)

八月二日(水)〜五(土)
午前九時... 午後三時解散
少年少女会連合本部
御本部年代別キャンプ
対象、中高生
※スタッフで 矢野裕子参加

教会行事

8月

- 1 (火) ●月例祭(報徳) 10時半
 - 5 (土) 少年少女全国大会 出発
 - 6 (日) 少年少女全国大会 当日
 - 7 (月) 少年少女全国大会 帰着
 - 9 (水) 清掃御用 10時
 - 10 (木) ●月例祭(生神金光、併せて 大神様) 霊祭 10時半
 - 18 (金) 甘木親教会 同釜婦人部会
 - 20 (日) 連夏のつどい
 - 21 (月) 清掃御用 10時
 - 22 (火) ●月例祭(天地金、乃神様) 共励会 13時半
 - 27 (日) 庄村家霊祭
 - 31 (木) 清掃御用 10時
- 《未定行事》青年会・若婦人会・少年少女会

9月

- 1 (金) ●月例祭(報徳) 10時半
- 2 (土) 甘木親教会「信徒の集い」
- 9 (土) 清掃御用 10時
- 10 (日) ●月例祭(生神金光、併せて 大神様) 月例霊祭 10時半
- 12 (火) 甘木親教会 壮年部御用(教師)・TSC
- 21 (日) 清掃御用 10時
- 22 (金) ●月例祭(天地金、乃神様) 共励会 13時半
- 23 (祝) ●秋季 霊祭 10時半
- 16 (土) 青年ふれあいフォーラム

※10月1日の月例祭は、御本部参拝のため
10月4日に変更し、9月末の清掃御用は10
月3日に変更いたします。

加治木教会 バンド練習会
毎週 土曜日 午後七時

「熊本地震」の「移動図書館
おあしす」が開かれるときの
演奏奉仕のおかげを蒙らせて
いただきましよう。
被災地のみなさんの心を癒す
演奏です!



全国大会に向け
「参加者が一人でも
あれば…」と
励んでいます!
(7/1)